

大気と海洋の相互作用に関するシンポジウム (第2回)

1. 会期 11月5日(金) 13時より
2. 場所 気象庁第1会議室
3. 司会 岸保勤三郎(気象庁)

話題提供 小倉義光(東大海洋研) 宮崎正衛(気象庁)

前回は大気と海洋の相互作用についての研究の現状をそれぞれの分野で展望して、紹介がありましたが、今回は問題をしぼり、予報という立場から考えたシンポジウムを開きたいと思います。前回のシンポジウムで明らかになったいろいろな問題点(天気 Vol 12, No. 4 参照)を念頭において、予報の当面する重要問題を十分に討論したいので、関心のある会員多数の参加を希望します。

成層圏気象に関するシンポジウム (第2回)

—— 気象学会秋季大会シンポジウム ——

座長 北岡竜海(気象庁予報部)

話題提供

- (1) 総観的立場からみた成層圏循環の諸問題について 杉本 豊(東京航空気)
- (2) 成層圏循環とオゾン 関口理郎(気象庁高層)

春季大会において「成層圏に関するシンポジウム」を行ないましたが、時間の都合で十分な討論ができませんでした。この問題は最近、学問的にもまた長期予報との関連においてもきわめて重要であり、興味深い話題を含んでいます。秋季大会においても再びとり上げて討論を深めたいので、会員多数の参加を希望します。なお詳細は天気12巻10号および秋季大会予稿集に掲載を予定していますが、前回のシンポジウムとの重複による無駄を避けるため、天気12巻7号に掲載されている「成層圏に関するシンポジウムの概要」を熟読の上、当日同誌をご持参下さい。

講演企画委員会

日本気象学会秋季大会プログラムについて

12月1日(水)、2日(木)、3日(金)の3日間、気象庁内で開催される秋季大会のプログラムは天気12巻10号に掲載の予定です。同誌の発行はできるだけ早めるようにしたいと考えています。

天気編集委員会

月例会のお知らせ

主題: 気象統計

会期: 10月15日(金) 13時より

会場: 気象庁ビル4階 気象庁予報部会議室

1. 鈴木栄一(気研): 離散型変量を含む場合の相関理論とその気象への応用(20分)
2. 山田一, 増田博, その他(気象庁予報部)
A. D. P. と手書による北半球天気図との比較(20分)
3. 高橋浩一郎(気研): 初期条件の誤差と予報の精度(20分)
4. 大井正一(気象庁予報部): ベース転換について(20分)
5. 荒井康(気研): 500mb面の相関場の解析(20分)
6. 大井正一(気象庁予報部): 予想天気図作成について(20分)

(講演要旨は表紙3頁参照)

主題: 気象災害

会場: 気象庁第1会議室

会期: 10月22日(金) 10時より

研究発表

1. 奥田穰(気象研)・知花正宏(東京農大): 農地及び土木施設の被害と雨量の関係
——台風災害の研究(3)—— (20分)
2. 奥田穰(気象研): 天災と人災の接点について (20分)
3. 三寺光雄・大滝俊夫(気象研): 崖くずれの気象特性について (20分)
4. 高橋浩一郎・常岡好枝(気象研): 炭坑災害と気象との関係 (20分)
5. 根本順吉: 自然災害史年表について (20分)

シンポジウム

異常気象の諸問題

12月の月例会 講演募集

主題: レーダー気象

会期: 12月16日(木) 13時から

会場: 気象庁第1会議室

申込: 10月末日までに400字以内のアブストラクトを付けて、下記へ申込んで下さい。

記

東京都杉並区高円寺北4丁目35-8
気象研究所 台風研究部 今井一郎